

20041

条件付きMRI対応ペースメーカーにおける当院での対応

<sup>1</sup>KKR札幌医療センター

鍋島 豊<sup>1</sup>、阿部 文靖<sup>1</sup>、佐藤 崇太<sup>1</sup>、棚田 智之<sup>1</sup>、小倉 直浩<sup>1</sup>、大宮 裕樹<sup>1</sup>

【はじめに】当院臨床工学技士はペースメーカー（以下PM）に関する業務として移植術の際の立ち会い、手術室、内視鏡室等でのPMチェック、または一時的な設定変更などを行っている。その中、従来禁忌であったPM植込み患者に対するMRI検査がデバイスの改良や試験等により施行可能となり、対応する必要が生じてきた。今回MRI対応PM植込み患者への当院の対応について報告する。【事前準備】メーカーが提供しているトレーニングを受けた循環器内科医、看護師、CE、放射線科医、診療放射線技師で共同し、メーカーが推奨しているチェック内容を参考に当院独自のチェックリストを作成した。これを用いMRI検査が考慮された際から、実際の検査終了後までチェックリストに従い各職種によりチェックできるようにした。【検査当日】検査当日は循環器内科医、看護師、CE、放射線技師立ち合いのもと、チェックリストに従いチェックし、PMをMRI検査モードに設定している。検査中のモニタリングはパルスオキシメータを用い心拍数と酸素飽和度を常時監視し、検査終了後速やかに再度チェックをし、PMの設定を元に戻している。使用したチェックリストは患者カルテに綴じ保管している。また現在は原則として、緊急でのMRI検査はしないこととしている。【結語】MRI対応PMが導入され、院内での安全でスムーズな検査の為に当院独自のチェックリストを作成し、MRI検査へ対応している。今後はICD、CRTなどのMRI検査にも対応すべく関連部署と連携し、随時チェックリストの作成し対応していくことを検討している。